



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
平成30年8月30日
☎55-2260 第5号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



～実り多い二学期を迎えて～

子どもたちは例年より暑くて厳しい夏休みを過ごしたこともあり、日焼けをした顔で元気に登校して来ました。これもひとえに保護者の皆様方のご指導・ご協力のお陰と感謝いたしております。

さて、今年は熱中症や台風、豪雨災害など、自然の災害が多かった夏でした。被災地の状況などテレビ番組での報道も多かったように思います。また、夏の高校野球では、秋田金足農業が準優勝するなど東北の学校の活躍も印象に残りました。これらの話題などで、家族のふれあいの時間も持てたのではないのでしょうか。

学校では夏休み中にプール開放を予定した日が16日ありました。天候が良くほとんど使用でき、子どもたちは真っ黒く日焼けした夏休みになりました。また、夏休み中、親戚の家に泊まりに行ってくたくさん遊んだこと。体験教室に参加したこと。スポーツ少年団の大会に参加したこと等々。いろいろな体験をしたり挑戦したり、生涯忘れることがない思い出をたくさん残すことができましたようです。

夏休みも明け、実り多い二学期が始まりました。この時期は学校生活でも充実する期間でもあります。特に、大きな行事として、5・6年生の会津方面への修学旅行があります。実は会津の話で欠かせないのは、教育の原点ともなっている子どもへの躰（しつけ）です。江戸時代の会津藩の藩校、日新館の教えの中に、「**什の掟**」（じゅうのおきて）というのがある。嘘をついてはいけない、弱い者をいじめてはならないこと等、7カ条述べた最後に、「**ならぬことはならぬものです**」という文言が結びとなっています。この教えは、武士に限らず広く会津地方で子どもの躰に使われていました。この言葉には、理屈ぬきで悪いことは悪いと教えぬく力があり、幼い時にしっかりとたたき込むことでものごとの価値観を身に付けさせようとしたのです。ものごとの価値観は理屈や理論で説明できるものばかりとは限りません。本当に大事なことは頭ごなしでも身に付けさせることが必要だと考えます。

子どもたちには「ならぬことはならぬものです」の言葉通り、楽しい学校生活や家庭での生活を送るため、温かな指導の中にも、厳しく躰（学習規律や学習習慣等）をすることで、大きく成長するのではないのでしょうか。

教職員一同、誠心誠意を持って、家庭・地域社会との協力連携を図りながら、子どもたちの教育にあたります。ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

甘酒地蔵尊祭典に参加して

7月29日（日）早稲谷の甘酒地蔵尊祭典に参加し、早稲谷鹿踊の奉納を見てきました。ここ1年で亡くなられた方々の御霊を慰める踊りや大漁を祝う鯉踊り、牝鹿に求婚する踊りなど、4メートル以上もあるササラを大きく振り回し約1時間も踊る勇壮な踊りに、本当に感動させられました。学校では、早稲谷鹿踊を伝統文化継承と地域について学ぼうと総合的な学習を中心に学習していますが、改めて八瀬地域の素晴らしさを実感できた1日になりました。

